



|              |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 無腫瘍性乳頭異常分泌症に対する乳管腺葉区分切除術とその基礎疾患の病理学的研究                                                                                                                                                                                                                               |
| Author(s)    | 星野, 嘉明                                                                                                                                                                                                                                                               |
| Citation     | 大阪大学, 1970, 博士論文                                                                                                                                                                                                                                                     |
| Version Type |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/30336">https://hdl.handle.net/11094/30336</a>                                                                                                                                                                                  |
| rights       |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| Note         | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"&gt;https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> >大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。 |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

|         |                                            |
|---------|--------------------------------------------|
| 氏名・(本籍) | ほしのよしあき<br>星野嘉明                            |
| 学位の種類   | 医学博士                                       |
| 学位記番号   | 第 2054 号                                   |
| 学位授与の日付 | 昭和45年4月1日                                  |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第2項該当                               |
| 学位論文題目  | 無腫瘍性乳頭異常分泌症に対する乳管腺葉区分切除術とその基礎疾患の病理学的研究     |
| 論文審査委員  | (主査)<br>教授 陣内傳之助<br>(副査)<br>教授 宮地 徹 教授 芝 茂 |

## 論文内容の要旨

### 〔目 的〕

無腫瘍性乳頭異常分泌症は、頻度は多くないが、この症候を示す疾患のなかに乳癌が含まれるので、乳癌の早期発見の面からいって重要な症候である。本症候に対する手術としては、分泌乳管口から針を挿入し、それを指標として病的乳管を追跡し病巣を切除する“乳管腺葉区分切除術”がある。しかし本術式はその手技がむづかしく、あまり広くは行なわれていない。そこで、その手技を改善するとともに本術式の適応を決定しようと試みた。また本術式によって見出した早期病変の臨床病理学的検討を行なった。ことに基礎疾患の一つである乳管乳頭腫の早期像から病理学的性状を検討し、その臨床像を粹付けた。また、早期乳癌像を検討し、乳癌発生の一形式を明らかにしようと試みた。

### 〔方法および成績〕

#### 1. 臨床的観察と外科的処置

昭和29年から43年までの当科における乳頭異常分泌症例は257例で、このうち外科的処置を加えた例は98例であった。また無腫瘍の乳頭異常分泌症例は113例であり、そのうち外科的処置を加えたものは35例で、その内訳は、乳癌4例、乳管乳頭腫14例、乳腺症15例、慢性乳腺炎2例であった。

以上のうち昭和41年以後の無腫瘍例21例に対して“乳管腺葉区分切除術”を行なった。この21例の組織学的診断は、乳癌2例、乳管乳頭腫8例、乳腺症9例、慢性乳腺炎2例であった。これらを中心にして、有腫瘍例を含めた乳頭異常分泌症例を対象として検討した。

臨床的に、異常分泌液の潜血反応をみると、最近の症例51例中、反応陽性例は29例であったが、乳癌(4例)と乳頭腫(9例)では全例陽性であった。また潜血反応施行以前の例も含めて、無腫瘍性乳癌は4例とも血性分泌であり、乳頭腫も顕微鏡的には全例血性分泌を示した。これらのことから、本術式の適応は、第一に分泌物の潜血反応陽性例があげられる。また手技上、単一乳管からの分泌例

に最も適応がある。

つぎに本術式の手技上の難点は、異常分泌乳管口への乳管導入針挿入のむづかしさと、乳管壁が薄いので同針で損傷しやすいという2点である。そこで導入針の挿入を容易にするため、乳管開口部を拡大する目的のボーリング針を考案した。試作した種々のボーリング針のうちで、直径1mm、その先端は頂点を鈍化した角度約60°の円錐形のものが最も良好な結果を示した。また乳管導入針は直径の種々なものを用意し、症例毎の乳管管径に応じたものを用い、乳管壁の損傷を防ぐことができた。

## 2. 病理学的研究

### イ. 乳管乳頭腫の病理学的研究

従来、乳管乳頭腫の病理学的基準は一律でなく、したがってその臨床所見も報告者によって差が大きかった。そこでその適当な基準を見出すため、本術式によってえられた乳頭腫について発生乳管部位から検討し、乳頭腫を次の2種類に分けた。

孤立性乳頭腫：主乳管に孤立性に発生するもので、乳管壁の1点から発生し、よく発達した結合組織と血管を含む太い茎をもつのが特徴である。

多発性（末梢性）乳頭腫：末梢に近いが比較的太い乳管から発生し、前者より細い茎で乳管壁の多数の点と連なる。この点でむしろ乳腺症の乳頭腫症に似るが、間質結合組織がより太く、血管に富む点で異なる。発生乳管壁の弾力線維をみても乳頭腫症の場合よりも層が多くて太く、乳頭腫症よりは中心側の乳管性状を示している。

以上2種類のうち後者は、むしろ乳腺症の性格をもっているので、上記の組織診断では前者のみを乳頭腫としてとりあげてみた。その結果、この腫瘍は臨床的に、血性分泌を初発症状とし、単一の乳管から比較的持続して分泌を示し、腫瘤は乳輪後部に存在する場合が多いという特異的所見を示した。

### ロ. 早期乳癌の発生過程に関する病理学的研究

本術式で見出した無腫瘤の早期乳癌2例について、連続切片による組織学的所見と、病巣部乳管の立体的再構築模型によって検討し、発癌過程を追求した。症例1では病巣部乳管は閉塞性乳管増生症の形をしており、その末端乳管に面癌癌のような部分や、乳頭腺癌がみられた。すなわち閉塞性乳管増生症と乳頭腫症とを合併する型の乳腺症からの癌化が推定された。また末端乳管にある小癌巣は互に孤立性で、多中心性の癌発生が考えられた。

症例2でもやはり乳管の形態は閉塞性乳管の形であり、その一部に充実性および乳頭腫状の癌巣がみられた。乳頭腫状の癌巣は、細い多数の茎をもち、多発性（末梢性）乳頭腫からの癌化を思わせた。また症例1の比較的太い乳管にも、境界領域像を示す個所があり、症例2の乳頭腫状の乳癌とあわせて、末梢乳管のみならず比較的太い乳管からの癌発生もあることが推定された。

### 〔総括〕

1. 無腫瘤性乳頭異常分泌症に対して“乳管腺葉区分切除術”を行い、その際ボーリング針を考案、使用することによって手技を容易にしえた。

2. 本術式は潜血反応陽性の分泌例に適応がある。

3. 乳管乳頭腫を、発生乳管部位から孤立性乳頭腫と多発性（末梢性）乳頭腫とに分け、その組織

所見についてのべ、臨床所見と対比した。

4. 無腫瘤性早期乳癌の2例について、連続切片による組織所見と乳管の立体構築模型から検討し、閉塞性乳管増生症と乳頭腫を合併した型の乳腺症からの癌化と、多発性（末梢性）乳頭腫からの癌化を推定した。また乳癌の多中心性発生の可能性を確認した。

## 論文の審査結果の要旨

近年、早期癌の診断技術が向上し、治療面にも著しい進歩がみられる。乳癌においても種々な理学的診断法が導入されつつあるが、主として乳腺腫瘤を対象としたものが多い。本研究は臨床的にまだ腫瘤を触れない、早期の乳腺疾患の診断のために、乳管腺葉区分切除術をとりあげたものである。この術式は手技上の困難さから現在まで広くは行なわれなかったが、その手技の改良を試みるとともにその適応を明らかにした。また同術式によって得られた早期病変の病理学的研究を行なった結果、一方では今まで定義のあいまいであった乳管乳頭腫の組織所見から一つの診断基準を示し、他方では早期乳癌例について癌巣部乳管の立体構造に着目し、その発癌過程を追求して新しい所見を見出した。

ことに閉塞性乳管増生症と乳管乳頭腫の合併した乳腺症と乳癌との関係、また早期管内性乳癌症例における多中心性発生の証明など興味ある知見が示された。したがって本研究は早期乳腺疾患の臨床と、早期乳癌発生過程の解明に寄与する所多く、十分学位に値するものである。